



広報九州

(平成20年12月10日)No1643
九州森林管理局

森林の流域管理システム推進発表大会



一般の部21課題、高校の部4課題を発表



九州育種場 倉本哲嗣育種研究室長



(株)伊万里木材市場 林雅文社長

民・国合同で研究成果発表

九州・沖縄から200人が参加

11月12・13日の両日、当局大会議室において平成20年度「森林の流域管理システム推進発表大会」が開かれ、九州・沖縄各県の森林・林業関係者、当局・署の職員、熊本県内の森林林業を学ぶ高校生など約200人が参加。一般の部21課題、高校の部4課題を発表し、優秀な成績を収めた一般の部6課題と高校の部2課題を表彰しました。(2面に関連記事)

同発表大会は、九州林政連絡協議会主催で、森林・林業関係者などが林業技術・流域管理など日頃から取り組んでいる成果を発表し、技術の交流を行うもので、今回で14回目を迎えます。

はじめに、同協議会会長の津元頼光九州森林管理局長が、「今年5月に九州7県知事と同局長で『九州の森林づくりに関する共同宣言』を行い、11月2日曜日を『九州森林の日』に制定し、今発表大会もその行事の一環として開かれました。今大会を契機として、相互の情報交換や交流が深まることにより、九州・沖縄の森林林業の更なる発展を期待します」とあいさつ。

その後、高校生4課題、民有林9課題、国有林8課題、民・国合同4課題を2日間にわたり発表しました。特に今年は、高校生と国有林の共同発表。また、小学校の先生と国有林の共同発表など例年にない、取り組み課題が発表されました。

2日目は、共同宣言の3つの行動方針に沿った特別発表が行われました。独立行政法人森林総合研究所林木育種センター九州育種場倉本哲嗣育種研究室長が「次世代スギ品種の開発に向けた九州産スギ精英樹の林業経営上の評価ー九州スギ精英樹検定林の30年次までの調査からー」と題して、株式会社伊万里木材市場林雅文社長から「九州材利用促進についてー伊万里木材市場の取り組みを通じてー」と題して、九州電力株式会社環境計画グループ江口勝也氏から「九州電力の自然共生社会実現に向けた取り組み」と題して特別発表が行われました。

最後に、宮城勇朗計画部長が、講評を行った後、九州林政連絡協議会長賞(最優秀賞1課題、優秀賞4課題)日本森林技術協会理事長賞1課題の表彰を行い大会を終了しました。

(担当＝指導普及課)



九州電力株式会社環境部 江口勝也氏

6課題と高等学校の部2課題表彰



九州林政連絡協議会長賞・最優秀賞 佐賀県立唐津南高等学校



九州林政連絡協議会長賞・最優秀賞 佐賀森林管理署

森林の流域管理システム推進発表大会

平成20年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞入賞課題と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会長賞

最優秀賞

○虹の松原における松原再生活動の取り組みについて

佐賀県立唐津南高等学校

栗原実希

戸川龍児

池野朱音

水野雄太

佐賀森林管理署

和田誠二

古川祐美

優秀賞

○壊れにくい作業路網～新スイッチバックの開設について～

宮崎南部森林管理署

大島博文

○巢植造林による台風被害防止 とシカの食害対策について

大分森林管理署

廣田光春

阿部夏子

武原龍行

○佐伯地区の再造林放棄地対策の取り組みについて

大分県南部振興局農山漁村 振興部森林・林業班

安原武尊

亀井淳介

○国有林から小学校へ繋がる森林環境教育の取組について

宮崎県三股町立三股西小学校

浜崎十四夫

宮崎森林管理署都城支署

片山恵介

森本博之

日本森林技術協会理事長賞

○宮崎県における長伐期施業技術の普及・定着化に向けた取組について

宮崎県環境森林課

蛸原啓文

田ノ上裕孝

高校生の部

九州森林管理局長賞



日本森林技術協会理事長賞

○光と笑顔の溢れる地域に～ネコヤナギの植栽によるホテル復活大作戦～
 熊本県立芦北高等学校 今村 透

奥平直人

小崎凌平

藤原佳祐

○泉の森を守ろう～巻枯らし間伐の普及に向けて～

熊本県立八代農業高等学校泉分校

坂上 彩

滝川千里

坂下嗣宗

鍋島隼希

(担当＝指導普及課)



九州森林管理局長賞 芦北高等学校



九州森林管理局長賞 八代農業高等学校泉分校

九州森林の日初の植樹祭賑わう

【鹿児島森林管理署】

鹿児島県県民の森において、鹿児島県、九州森林管理局、当署の共催で「九州森林の日」「美しい森林づくりinかごしま」が開かれ、来賓を始め、緑の少年団や県民約600人が参加して植樹祭が行われました。当日は、ミズナラなど1700本の苗木を植樹し、当局の坂田森林整備部長も記念植樹を行いました。また参加者は、チェーンソーのギネスチャンピオンによる伐倒と枝払いの妙技や掛かり木の処理方法などの実演、植樹記念の苗木配布や木工教室など楽しい一日を過ごしていました。



植樹をする坂田森林整備部長

JICA研修員受入



菊池水源で説明を受ける研修員

中学生が体験林業



枝打を体験する生徒

木材まつりでPR

住民参加型の森林管理に関心

独立行政法人国際協力機構からの依頼を受けてフィリピン環境天然資源省などから5人の研修員を受け入れました。

はじめに、研修員は九州森林管理局で管内の国有林の特徴、管理経営の方法などの説明を受けました。研修生からは、フィリピンで推進しようとしている住民参加型の森林管理に係る質問が数多く出され、当方から企業、NPO、ボランティア団体などが国有林野を活動のフィールドとして利用できるさまざまな取り組みについて説明しました。

次に、熊本森林管理署管内のくまもと自然休養林「菊池水源地区」(熊本県菊池市)を視察しました。管理方法などについての質問があり、地元市町村などと一緒に保護管理協議会を作り、協力金を得ながら、維持管理を行っているとの説明に驚いておられました。

自国の住民参加型の森林管理に当局の取り組みが少しでも参考になればと思います。

(担当＝総務課)

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県日向市立美々津中学校3年生を対象に体験林業を実施。バス内で「地球の温暖化と森林とのかかわり」について学んだ後、スギ造林地に到着、間伐や枝打ち作業の意義を勉強しました。その後、生徒らは3～4人のグループに分かれて間伐や枝打ち作業を体験しました。初めて鋸を使う生徒も多く、汗を流しながら鋸をひいていました。最後に生徒らから「思ったより、林業の作業は大変だと思った。森林の大切さがわかった」などの声が聞かれました。

【鹿児島森林管理署】

「第9回かごしま木材まつり」が鹿児島市のウォーターフロントパークで開かれました。当署からは自然の素材に親しんでもらうため竹とんぼ、ブーブ笛、小枝・木の実のクラフトづくり、フォトコンテスト入選作品展示を行いました。当コーナーは人気で終日賑わい、県民に対して大いに国有林をPRできました。



参加者で賑わう当署コーナー

金峰山フェスタ親子で木工に挑戦



木工品作りを楽しむ親子

【熊本森林管理署】

熊本市立金峰山少年自然の家で金峰山フェスタが開かれ、親子など217人が参加しました。当署は木工教室を担当。本立てや竹とんぼ作り、丸太切り体験などとおして、木の暖かみや森林の大切さを呼びかけました。子供たちは慣れない道具を使い、木工に挑戦、中には子どものために必死にお父さんが見られるなど、賑やかなフェスタとなりました。

綾プロジェクト



議論を交すプロジェクトチーム

第9回連携会議を開く

提案事項は全会一致で了承

11月14日、綾町会議室において綾の照葉樹林プロジェクト(綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画)連携会議各機関5者(当局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会)の出席の下、第9回の連携会議が開かれました。

今回の会議の議題は、①平成20年度事業計画の進捗状況②綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画の前期短期行動計画の検証・評価、第Ⅱ期短期行動計画(平成20～24年度)の策定です。

主な質疑意見として、「事務局運営には新規会員も獲得が不可欠であり、公民館など通じて町民に対する啓発活動を積極的に行っていくべきではないか。綾プロの第Ⅱ期行動計画については毎年度評価や検証が必要」などがありました。今後、出された意見などを踏まえ、取り組んでいくことを確認し、提案事項は全会一致で了承され、今年度から第Ⅱ期短期行動計画に基づきプロジェクトを展開していくこととなりました。

(担当＝計画課)

森林教室で木製品作り

【熊本森林管理署】

菊池森林事務所職員が中心となって、熊本県菊池市立菊池南中学校で森林教室を行い、スマイル学級6人の生徒が、木製プレートを使用した名札と丸太による鉛筆立てを製作。初めてドリルや鋸を使う生徒もいましたが完成度の高い製品ができあがりました。その後完成した作品で「森林の生態を考える」と題して、紙コップを森の生物や植物に見立て、思い思いの生態系を表現。完成した作品を手元に創作発表を行いました。最後に、「ヒノキの皮剥ぎや、ドリルでの穴あけが楽しかった」などの感想が述べられました。



制作に熱中する生徒

中学生に進路学習



講師を務める職員

【屋久島森林管理署】

鹿児島県屋久島町立安房中学校の依頼を受け、同中学1年生の進路学習の講師を務めました。これは児童らが進路を考える一つのきっかけになればとの考えから、島内の各職場に話がきたものです。当日は、組織図や資料を用いて組織や林業、国有林における事業、公務員の身分などを分かり易く説明。生徒からは、「この職業にはどんな人が向いていますか。この職業について良かったと思うことは」など多くの質問が出され、関心の深さを感じました。最後に「大変貴重な話を聞かせていただきありがとうございました。」のお礼の言葉が述べられ、学習会を終了しました。

地元公民館長から感謝状



感謝状を贈呈される佐藤さん

【沖縄森林管理署】

元租納森林事務所森林官(現熊本署天草森林事務所森林官)佐藤太亮さんが、租納森林事務所在任中の3年間、地域に溶け込んだ活動が評価され、国指定の重要無形民俗文化財「西表島の節祭(シチ)」の開催に先立ち、租納公民館長より感謝状を贈呈されました。佐藤さんは、ご家族で赴任をされ、奥様、子供達を含めた家族ぐるみで地域との交流に積極的に参加され、地域住民から全幅の信頼を寄せられていました。4月の異動で熊本署へ転勤となった後も交流が続いており、今年の「節祭」に際し、佐藤さんを招待して地域住民の感謝の意を伝えたいとの事で感謝状が贈呈されました。

盗採防止に一斉検問

【鹿児島森林管理署】

霧島連山も紅色が始まり登山客や観光客など入林者が多くなる時期を迎え、当署と国分・横川警察署および関係機関による盗採防止一斉検問を行いました。当日は、2箇所のゲートに分かれ、約360台の車両を止めてトラックなどを点検する一方、「自然を大切にしてくださいね」と当署の職員が声をかけながら、高山植物などの盗採防止への理解を求めました。今年は植物を乗せた御婦人の車があり、警察官と共に植物を現場へ返して「厳重注意処分」となりました。



検問を行う職員ら

看板設置に30人が参加



除幕を行う酒井会長(左)と山部署長

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県延岡市浜山国有林において、延岡中央ロータリークラブによる「ふれあい環境の森林づくり」がスタートしたのを記念して看板の設置が行われました。これは、当クラブが創立30周年を記念し、国有林でのライフサイクルの森造成事業を活用して、抵抗性マツの植樹やゴミ拾いなど、一般市民への参加を呼びかけ環境整備活動を行うというものです。看板設置には、関係者約30人が参加し、当クラブの酒井会長と山部署長が除幕を行いました。

NPO会員がブナを植樹



ブナの植樹を行う参加者

【大分西部森林管理署】

NPO法人「豊前の国建設倶楽部」は、大分県山国川源流部の平鶴国有林に、これまでブナ約700本を植樹しましたが、シカの食害防止対策をしていない個所の苗木が被害を受けたため、同倶楽部会員など約40人が参加し、ブナ200本の植樹とシカネット設置作業を行いました。当日は、あいにくの小雨模様でしたが、自然の中で心地よい汗を流し、怪我もなく無事に作業を終了しました。同倶楽部は、「源流部にブナを成林させたい」との強い思いで、今後も活動を続けていくことにしています。

県有林と国有林の意見交換会を実施

熊本県の要請を受け、立木および素材のシステム販売に係る意見交換を熊本県人吉市において当局と熊本南部森林管理署、熊本県(各地域振興局)合同で開催。

一日目は、県有林の紅取団地と同署管内の西浦国有林において、列状間伐および帯状択伐の実施状況、路網の作設状況、システム販売の概要などについて現地検討会を行いました。

二日目は球磨地域振興局会議室に場所を移し、立木販売・素材生産・システム販売などについてそれぞれ意見交換を行い研修会を終了しました。

今回初めてとなる県有林担当者との研修会で、互いの相違点もありました



現地で検討する参加者

が、今後の森林づくりに対し、なお一層の協力をし、森林整備の着実な実行に取り組んでいくことを確認しました。

(担当＝販売課)

島内木材利用の促進を検討



活発に意見を交す参加者

【屋久島森林管理署】

当署会議室において「地域木材利用推進打合せ会議」を開催。この会議は林野庁が進めている「木づかい運動」と、地球温暖化防止森林吸収源対策としての「美しい森林づくり」の一環として、島内における木材の利用促進を図る目的で開いたものです。当日は参加者から活発な意見が出され有意義な意見交換会となり、参加者からは「今後とも同様の会議を継続的に開いていただきたい」との意見があり、改めて会議を持つこととし第一回会議を終了しました。

森のつどいでPR



森の大切さを紙芝居で紹介

【長崎森林管理署】

長崎県佐世保市世知原町の世知原交流広場において、「第20回せちばる森のつどい」が開かれ、当署も参加しました。当日は、地域住民や世知原国見緑の少年団など約100人が参加。参加者は、紙芝居で森の大切さを学んだ後、親子などでそれぞれヒノキのツリー作り、森のスケッチ大会、餅つき体験、丸太切り競争などを行いました。また、昼食は地元料理の「じげもん鍋」が振る舞われるなど終日賑わいました。

日田森林フェアでPR

【大分西部森林管理署】

大分県日田地域の林業者や木材関連業者が木材の需要拡大に取り組むことを目的に、「第29回日田の森林フェア」が開かれ、日田材を使った木製品の展示・販売や木工教室、苗木の無料配布、チェーンソーアートなどの催しが行われました。当署も出展し、職員手作りの木工品やツルウメモドキなどの販売、実体鏡を使って鶴見岳やくじゅう連山を紹介、パネルを展示して森林・林業の説明を行うなど地域の身近な森林管理署としてPRすることができました。



好評の当署コーナー

高校生が職場体験



治山工事を体験する生徒

【大隅森林管理署】

職場体験実習で鹿児島県立鹿屋農業高等学校緑地工学科林業班の2年生3人が、4日間にわたり研修を受けました。これは、総合実習の一環で、現場での作業を体験し、将来の進路選択の一助とすることを目的に同校から依頼があったものです。研修では署長、課長、森林官などが講師となり、森林管理署の概要、間伐調査方法、治山工事など実習に重点をおいて行いました。研修後、生徒から「今回の実習を貴重な経験として、学業をさらに頑張りたい」とお礼の言葉がありました。

西三局協議会に参加



オランダ堰堤を視察する参加者

治山事業の発展に向け情報交換

10月27日から29日までの3日間、近畿中国森林管理局で治山事業西三局協議会が開かれ、当局から4人が参加しました。

同協議会は近畿中国森林管理局、四国森林管理局、当局が意見交換などを通じ治山事業の発展に寄与することを目的に、平成12年度から各局持ち回りで開いているものです。

一日目は近畿中国森林管理局会議室において、技術面や入札制度などについて意見交換や情報交換が行われました。

2日目と3日目は滋賀森林管理署の京都大阪森林管理事務所において、明治時代にオランダ人技術者デレーケが築造の指導を行った通称「オランダ堰堤」や都市近郊林での治山工事の実施状況などを視察しました。

京都市内の国有林では地元との密接な連携により、治山工事、森林整備、景観対策を行っており、特に清水寺の背景森林となっている国有林では、昭和9年の室戸台風による大規模な被害箇所が治山事業により立派に森林に回復し、景観的観点から国民の森林としてその役割を十分果たしています。

今回視察した現場は、当局管内ではまれな事例ではありますが、地域住民の立場にたった治山工事の実施と事業のPR、情報発信という点で今後治山事業を展開していくうえで大変有意義な協議会となりました。

(担当＝治山課)

児童59人にお届け講座

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県日向市立財光寺南小学校5年生の児童59人を対象に、森林インストラクターの大野裕さん(日向市ふるさとの自然を守る会)の協力を得て、お届け講座を実施。児童らは、スライドを見ながら、森林の役割や森林・林業の現状、森林官の仕事などを勉強した後、木の名前当てクイズやゲームを交



展示の樹幹に触れる児童

ながら学校内の樹木の名前や特徴を学び、スギやヒノキの樹幹や枝葉の展示に興味深く触ったり、臭いを嗅いだりしていました。最後に、間伐材で作られたフラットファイルを配布し、間伐の必要性や間伐材の使用を訴えました。

低コスト路網検討会を開く



検問を行う職員ら

【屋久島森林管理署】

宮之浦森林事務所管内において「簡易で崩れにくい路網」の普及・定着に向け、熊毛流域森林・林業活性化センターとの共催で「低コスト路網検討会」を実施。参加者は、今年設置した路網の現地視察で、路網が二度の台風にさらされたにもかかわらず、大した被害が出ていないことに感心。その後、屋久島森林環境保全センターの会議室で意見交換会を行い、積極的な意見や質問が出され、有意義な検討会となりました。また、新聞記者の取材もあり、多くの方に関心がおよんでいることを実感しました。

海外研修生が作業路視察



遺伝資源保存林を視察する研修生

【宮崎南部森林管理署】

アフリカ、東南アジア、南米のJICA研修員12人が来署しました。署長から管内概要の説明を受けた後、三ツ岩林木遺伝資源保存林を視察。その後、壊れにくい作業路で効率的な列状間伐を行った個所を視察し、壊れにくい作業路が必須となること、間伐の仕方などを学びました。特に作業路の作り方については、法面が全く崩れず、1年足らずで緑化していること、モルタルなどを使わず林内にある土石、根株だけで開設していることに高い関心を示し、帰国後、それぞれの国の実情に応じた適用が期待されるものとなりました。

ボランティアによる照葉樹林復元作業を実施

11月15日、綾の照葉樹林プロジェクトエリア内で、林内に生育している照葉樹の生長や発芽を促進するため、ボランティアの方々による復元作業を行いました。

当日は、午前、午後の部に分かれて実施、午前の部は東京から参加のN〇木の家だいきの会と広く一般公募したボランティアの方々31人、午後の部は関西から参加の日本KFC・ピザハット事業部企画の体験ツアー親子と地元上畑地区の親子29人が参加しました。

参加者のほとんどが木を伐るのは初めてで、復元作業の趣旨や宮崎森林



復元作業を行うボランティア

管理署の職員から安全作業の説明を受けた後、現地に移動し、インストラクターからの指導の下、照葉樹の生長と新たな稚樹の発生を期待しながら一生懸命にノコギリを引き、木が倒れると暗い林内が明るくなる光景を実感しながら作業を続けていました。

(担当＝計画課)

クリーン活動に60人が参加



ゴミを回収する参加者

【熊本南部森林管理署】

昨年に引き続き「千年の森林」周辺のクリーン活動を行い、当署職員、人吉市大畑、矢岳地区の地域住民、熊本南部林業土木協議会など約60人が各班に分かれ、国道沿いや旧道、大畑、矢岳地区のゴミを回収しました。回収したゴミは、可燃物270^{キロ}、不燃物570^{キロ}、その他タイヤ8本ありました。まだまだ心ない者の不法投棄が後を絶たない状況です。今後も、不法投棄がなくなるまでこの活動を継続することとしています。

展示コーナーが大人気



木片でクラフトを楽しむ親子

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県日向市駅舎で、宮崎県木材需要拡大推進会議主催の木づかい啓発キャンペーン事業「宮崎やまんかん祭り2008」が開かれ、当署も木製品の展示即売やフォトコンテスト入選作品の展示などを行いました。特に、職員手作りの木のイスやドングリの実で作成した装飾用品や、広葉樹の木片でクラフトを作成する「木くんコーナー」では、用意した材料が不足するなど大人気でした。

海岸林を一斉清掃

【宮崎森林管理署】

今年も宮崎県下一斉に行われた「クリーンアップ宮崎」の機会を活用し、県下で海岸林を管轄している宮崎北部署、西都児湯署、当署で一斉に海岸林の清掃を行いました。県民の貴重な財産であり、全国に誇れる白砂青松の海岸林をより良いものとして、後生に引き継ぐことを目的とし、県、関係市町村、自治会、ボランティア、民間団体などの連携・協力の下、小雨の中での清掃活動を展開しました。



7人が林業を体験



丸太切りを楽しむ参加者

【屋久島森林管理署】

屋久島環境文化研修センター主催の自然体験セミナー「森物語」が開かれ、一般公募で熊本、宮崎、福岡、埼玉、愛媛の各県から参加した7人に対して体験林業を行いました。間伐作業と枝打ち作業に取り組んだ参加者は、慣れない作業に悪戦苦闘しながら挑戦していました。また、丸太切りでは、互いに競争しながら笑顔で楽しんでいました。山の作業を初めて体験する子どももいて貴重な経験ができたと言っていました。

秋の全国火災予防運動



消火器で消火訓練する職員

冬季を迎え初期消火など訓練

「火のしまつ 君がしなくて 誰がする」の全国統一標語のもと、11月9日から15日までの1週間、秋の全国火災予防運動が行われました。当局では、火災が発生しやすくなる冬期を迎え、火災予防の意識を高めるため、11月6日に局庁舎構内で、消防訓練を行いました。当日は、熊本市中央消防署の方々にご協力をいただき、火災発生時の通報や初期消火、避難誘導、待避など本番さながらの訓練を実施。職員による初期消火活動を行う場合の消火栓や消火器の取り扱い方法、延物の上階に取り残された方の救助袋による避難訓練も行い、救助袋の設置方法などを体験しました。最後に、自衛消防隊本部長の山元康則総務部長が「日頃から職場・家庭においても火の取り扱いには十分注意し、もし火災が発生した場合は、本日の訓練を教訓に冷静に行動してください」とあいさつし、消防訓練を終了しました。（担当＝経理課）

民・国合同で海岸林清掃

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県延岡市の新浜国有林と浜山国有林で民・国合同の「海岸林一斉清掃」を行いました。特に国道沿いは車からの投げ捨てと見られる空き缶などが多く、ドライバーのマナーの悪さが目立ち、海岸林内部では、自転車などの粗大ゴミの投棄が目立ちました。当日は、朝から雨にもかかわらず、周辺の地区住民や延岡走ろう会などのメンバー約100人が雨合羽持参で参加し、環境保全に対する意識の高さが伺われました。また、海岸林では延岡工業高校の生徒約10人が参加し、ジョキングなどで利用する歩道沿いのゴミを熱心に拾い衆目を集めていました。



清掃作業を行う参加者

マツ林整備で勉強会



下刈作業を行う参加者

【福岡森林管理署】

海岸マツ林の整備という共通課題を持つ当署と国営海の中道海浜公園事務所(国土交通省)は連携して海岸マツ林の整備に関する勉強会を開いています。今回は、実作業を含めた第2回の勉強会を開き、マツの健全な育成を目的とした海岸マツ林の除・間伐作業の講義を行った後、海の中道海浜公園の現場で署の職員指導のもと総勢45人が下刈り作業に汗を流しました。全く手を付けられていないマツ林の整備作業には手間がかかりましたが、参加者からは、適切な施業の実施の必要性を認識したとの声が聞かれました。

地域と連携ブナ林保全対策



ネットを設置する参加者

【北薩森林管理署】

ブナの南限とされる鹿児島県薩摩半島の紫尾山で、さつま町役場、さつま町議会議員、地域ボランティアなどが参加し「紫尾山のブナ林保全・保護対策」事業の一環として、シカの食害対策に取り組みました。当日は、肥後署からブナ林の重要性にかかる話を受け、ウサギやシカからの食害を避けるため、シカ被害防止ネットを設置し、ネットの内側で発芽条件の良い地面を耕し、事前採取したブナ種子を播種、覆土する作業を行いました。高地での冷え込んだ中での作業となりましたが、参加者は心地よい汗をかきながら来春のブナの稚樹との出会いを心から楽しみにしている様子でした。

第4回森林(もり)のアートギャラリー

セレモニーに40人参加

局外壁を森のアートで飾る

多様な森林の役割・重要性を身近な場所を使って絵画で表現することにより、森林の大切さや「国民の森林・国有林」を広く一般市民に普及啓発するため、平成17年度から局庁舎東側市道沿いのブロック塀を「森のアートギャラリー」として、ウォールアートで飾っています。今年度も、6月から7月に熊本市内の小学生から高校生までのグループに絵を募集し、16作品の応募の中から6作品を選考し、パネル作品(1・4m×4・5m:コンパネ5枚分)制作を依頼しました。



「生命の歩み～森と共に～ 熊本県立必由館高等学校美術部」

このほど、作品が完成したので、11月22日、「第4回森林のアートギャラリー」の表彰状授与・作品披露などのセレモニーに山元康則総務部長、児童・生徒、先生およびご父兄など約40人が出席しました。

今回の作品も、自然の森の良さをもう一度思い出してほしいという願いや、どんなに小さな命でも一生懸命生きているなどの思いを、森林と水、そこで共生して生きている鳥、蝶、シカなどの生物が、児童・生徒の豊かな感性で鮮やかに描かれた力作揃いです。

なお、今回の児童・生徒の6作品は次のとおりです。

- ◎「森の日の出」＝熊本市立奥古閑小学校五年生
- ◎「春の森」＝熊本市立北部中学校美術部
- ◎「神秘の森」＝熊本市立楠中学校美術部の作品
- ◎「未来へつなごう」＝熊本大学教育学部附属中学校美術部
- ◎「龍森(りゅうしん)」＝熊本市立龍田中学校アートクラブ
- ◎「生命の歩み～森と共に～」＝熊本市立必由館高等学校美術部

(担当＝指導普及課)

[トップへ戻る](#) ご意見等は[こちら](#)から